

phase01_計画軸模型を用いた周辺環境との応答によるスタディ

001 002 003

siteD siteC siteB siteA

phase02_設定可能な、或いは設定すべき”可変性の種”の選定

phase01_計画軸模型を用いた周辺環境との応答によるスタディ

001 002 003

siteD siteC siteB siteA

phase02_設定可能な、或いは設定すべき”可変性の種”の選定

phase01_計画軸模型を用いた周辺環境との応答によるスタディ

001 002 003

siteD siteC siteB siteA

phase02_設定可能な、或いは設定すべき”可変性の種”の選定

phase01_計画軸模型を用いた周辺環境との応答によるスタディ

001 002 003

siteD siteC siteB siteA

phase02_設定可能な、或いは設定すべき”可変性の種”の選定

phase03_設定された”可変性の種”の調停を踏まえた設計

Site D

phase03_設定された”可変性の種”の調停を踏まえた設計

Site C

phase03_設定された”可変性の種”の調停を踏まえた設計

Site B

phase03_設定された”可変性の種”の調停を踏まえた設計

Site A

phase04_将来的な状況変化と種の応答による反復的ケーススタディ

Case01, Case02, Case03

phase04_将来的な状況変化と種の応答による反復的ケーススタディ

Case01, Case02, Case03

phase04_将来的な状況変化と種の応答による反復的ケーススタディ

Case01, Case02, Case03

phase04_将来的な状況変化と種の応答による反復的ケーススタディ

Case01, Case02, Case03

phase05_反復的に環境適応を繰り返し続けることで、アジャイルなプロセスを継続させていく。

Site D

phase05_反復的に環境適応を繰り返し続けることで、アジャイルなプロセスを継続させていく。

Site C

phase05_反復的に環境適応を繰り返し続けることで、アジャイルなプロセスを継続させていく。

Site B

phase05_反復的に環境適応を繰り返し続けることで、アジャイルなプロセスを継続させていく。

Site A